

2021年8月30日
株式会社 A D E K A

千葉工場で最先端フォトレジスト向け光酸発生剤の生産能力を増強

株式会社 A D E K A（代表取締役社長：城詰 秀尊）はこの度、EUV（極端紫外線）をはじめとする半導体の先端リソグラフィ工程で使用される光酸発生剤の生産能力を増強することを決定しましたのでお知らせいたします。

5G通信の普及とテレワークなどのライフスタイルの変化に伴い、半導体需要が活況であることを背景に、当社の光酸発生剤「アデカアークルズ」シリーズの販売が好調に推移しています。当製品は、微細なパターンニング形成とppb（10億分の1）レベルの低メタル管理を特長とし、世界トップクラスの性能を有しています。

今後、半導体の微細化進展に伴い、最先端リソグラフィ技術であるEUV露光の拡大が予想されており、従来のリソグラフィ向け光酸発生剤の技術革新が必要とされています。本投資ではEUV向け製品の提供を加速するべく、従来では対応することが難しい1ppb未満の低メタル管理を実現する最新の設備を導入します。また、導入を決定した生産設備では、微細化進展に伴い新たに必要となる半導体周辺材料の生産も計画しています。

A D E K Aは先端の半導体材料の提供を通じて、ICT社会の実現に貢献してまいります。

◆ 生産能力増強の概要

所在地	(株)ADEKA千葉工場（千葉県袖ヶ浦市北袖3-1）
投資金額	27億円
延床面積	1,698平方メートル（2020年度時点：280平方メートル）
能力増強	従来比2倍以上
スケジュール（予定）	着工：2022年3月、営業運転開始：2023年度中



▲ 千葉工場全景

補足1：ADEKAの光酸発生剤「アデカアークルズ」シリーズについて

当製品は半導体リソグラフィ工程で微細なパターン形成を実現するために、特定の光や電子線に反応して酸を発生させるフォトレジストの開始剤です。

最先端のリソグラフィ用途：ArF（フッ化アルゴン）+ EUV（極端紫外線）露光で使用されるフォトレジストに欠かせない製品として、さらなる販売の拡大を見込んでいます。

補足2：ADEKA 情報・電子化学品事業について

当社情報・電子化学品事業は、半導体分野やディスプレイ分野でICT社会の発展に欠かせない先端“素材”を提供しています。

利益性の高い世界トップシェア製品を多数有しており、例えば高誘電材料「アデカオルセラ」シリーズは、先端半導体DRAM用途で世界シェア50%以上を占めています。

ADEKAグループ中期経営計画『ADX 2023』（2021-2023年度）では、「次世代ICT分野」を重要分野の一つと位置付け、飛躍的な規模拡大を目指してまいります。

◆ 2021-2023年度ADEKAグループ中期経営計画『ADX 2023』情報・電子化学品 計画値

2023年度 KPI :	営業利益	110 億円
	売上高	441 億円
設備投資計画 :	95 億円（3カ年）	

- 当社情報・電子化学品事業の概要や成長戦略につきましては、「2022年3月期第1四半期決算／情報・電子化学品事業説明会」（9月上旬当社webサイト投資家情報ページに動画掲載）にてご説明いたします。

以上

■本リリースについてのお問い合わせ先

株式会社ADEKA 法務・広報部 総務・広報グループ Tel:03-4455-2803